

【日 時】2014年5月24日（土）13:30～16:30

【場 所】桜井市立図書館

藻谷さん「里山資本主義の極意」を語る 奈良の『現智の人』3人も活動報告

『里山資本主義』の共著者、藻谷 浩介さんが桜井市にやってきた。今やブームになりつつある「里山資本主義」について、その極意を語った。里山資本主義を語るにふさわしい、木の香り漂う桜井市立図書館には230人が詰めかけ、藻谷さんの話に聞き入った。



里山資本主義とは何か？お金でお金を生み出すマネー資本主義ではなく、お金に計算しようがないものを使って「不安を希望に」変える。つまり、地元でとれたものを地元で消費する。原料も地元産のものをできるだけ使う。地元の人が働いてつくり、今ここにしかないものでほかの地域から来た方をもてなす。耕作放棄地を耕す。安心・安全が増え、元気な高齢者が増加する。そして若夫婦が移住してくる。これがサブシステムとして重要な里山資本主義だということです。

日本はアジアの工業国に対してことごとく黒字だが、そこで稼いだお金を、アラブやオーストラリア等に、高熱費として支払っている。それからフランスからはワインやチーズを、イタリアからはパスタやオリーブオイルを買っている。これら、フランスやイタリアは里山資本主義がさかんな国。日本はハイテクな国として知られますが、今世紀勝つのはハイテクではなく、ハイ文化な人です。奈良は地産商品を増やすことが可能な地域。例えばそうめんや吉野葛。うまく加工して高価値で売れば、高価格で売れるものが奈良にはたくさんある。



松井 正剛桜井市長にもお越しいただきました。



リレートーク「里山資本主義を奈良に～不安を希望に～」



「いこま棚田クラブ」の出口 育宏さんには、荒廃が進んでいた生駒山中腹の棚田や里山を地域の人々と協働で再生し、活気ある棚田をつくる活動についてお話いただきました。

「うだ夢創の里」の仲尾 京子さんには、耕作放棄地で米や野菜をつくり、廃校になった保育所のレストランで提供したり、配食サービスを行うなどの活動についてお話いただきました。

「地域未来エネルギー奈良」の清水 順子さんには、再生可能エネルギー導入により、安心して安全なエネルギーの地域自給を通じた、

地域活性化を目的とする活動についてお話いただきました。

藻谷 浩介さんからのコメント

いこま棚田クラブは、全国に棚田の活動はたくさんあるが、そのなかで表彰され、ほかの人たちもこれをまねしなさいということだと思います。先進事例であり、ほかの人たちの役に立つということですね。景観保全という非常に高い志を持って活動され、米をつくるために草刈りや間伐や菜の花も植える等、いろいろなことをしながら景色を守る。すごいと思うのは、小学校や幼稚園を巻き込んでやっている。しかも労働力は半分以上大阪から来ていること。すごいことの宝庫のよう。都市の近くでそんなにきれいなところがあるというのが奈良らしい。実に面白い。

うだ夢創の里は、地域おこしをはじめられてわずか4年で、そこまで大発展されているのは素晴らしい。コアなメンバーが15～16人というのはすごい。普通に考えるとそんなにエネルギーとやる気とネタがたくさんあるはずがないと思うのですが、実はあるということ。室生寺も村人が総力を挙げて守ってきたんですよね。室生は高齢者も増えていて大変なところなんですけど、今日活動を聞いて、本当の地域力が出たのかな、エネルギーがあるんだなと感じます。交通の便も悪いところですが、あれだけのことができるということは、他地域もできるということ。

地域未来エネルギー奈良は、世間に太陽光発電の話が出る前から善意のお金を集めて活動していた点が素晴らしい。こういう活動はお金を集めるのが難しい。信用をつくってやるのが本当に大変。いったん不祥事が起きたら、いっぺんでつぶれてしまう。一円もおろそかにしない感覚の人がきちんと回していけるのがすごい。市民の意識レベルが高いからできること。

